
研究活動報告

WHO/SEARO 健康的な高齢化に関する専門家会合

2021年8月10日(火)・11日(水)、オンラインにて、世界保健機関(WHO)東南アジア地域事務局(SEARO)が、第一回健康的な高齢化に関する東南アジア地域専門家会合(First SEAR Expert Panel Meeting on Healthy Ageing)を開催し、筆者も参加した。会合は地域事務局ニーナ・ライナ氏の挨拶で開会され、世界保健機関執行理事である中谷比呂樹教授を座長に、世界、WHO 東南アジア地域の高齢化の現状、ICOPE(高齢者のための統合ケア)をはじめとした介護システム、新型コロナウイルス感染症の高齢者ケアの影響について、情報共有と協議が行われた。

昨年8月に世界保健総会、12月に国連総会で、「健康的な高齢化の10年」決議案が採択され、その行動計画を通じて世界全体での健康的な高齢化が推進されることとなった。おりしも2022年はマドリッド高齢者問題世界会議から20年目にあたり、高齢化に関するマドリッド国際行動計画が各国で実施され、健康的で活動的な高齢化が推進されているかSDGs指標を活用しながら評価されることとなっている。日本も世界で一番高齢者割合が高い国として、また介護保険制度などを通じた高齢者介護システム先進国として、その動向について各国からの関心は高い。ウイズコロナの中、どのように健康的な高齢化を推進するのか、各国の協調が進んでいる。(林 玲子 記)

第34回国際地理会議

第34回国際地理会議(34th International Geographical Congress)は2021年8月16日(月)から20日(金)にかけてオンライン上で開催された。当初はトルコのイスタンブールで開催を予定していたが、世界的なCOVID-19の蔓延状況に鑑みてオンライン開催に変更となった。本年の大会では117のオーラルセッションと、89のポスターセッション、7の基調講演が催され、このうち11セッションがCOVID-19に関するものであった。なお、著者は“Future Prospects of Population Aging in Japan: A Cluster Analysis Using Small Area Population Projection Data”と題し研究報告を行った。次回大会(35th International Geographical Congress)は2024年の8月25日(日)から30日(金)にかけてアイルランドのダブリンで開催予定である。詳細についてはIGC2024の公式サイト(<http://igc2024dublin.org/>)を参照されたい。(井上 希 記)

第31回日本家族社会学会大会

第31回日本家族社会学会大会は、2021年9月4日(土)～9月5日(日)の日程で開催された。当初、開催校である九州大学(福岡市・伊都キャンパス)での対面開催も検討されたが、新型コロナウイルス(COVID-19)第4波の感染拡大を受けて、前回大会と同様にオンラインで実施されることになった。

今大会では、自由口頭報告が39本と前回大会(33本)よりも多く、例年通り「出生・少子化」および「結婚・非婚」のセッションも開かれた。新たな部会として「コロナ禍と家族」も設けられ、新型